Management Club Report

Oct. 2007/Vol.58

Monthly Opinion　≪集団が生み出す強み弱み≫

私たちは日々の仕事を単独で行なうことは少なく、多くの場合、他者の協力を得たり、他者に協力したりといった他者との関わりの中で行なっています。特に歯科医院は専門の知識とスキルを身に付けた複数の人たちがハイテク機器を使いながらチームとして対応する、スペシャリスト集団です。そのような歯科医院の業績は、専門技能や装備の高度化も欠かせませんが、チームで機能する以上、チーム力を高めることが向上に繋がるといえます。チームにはチームカラーという「集団の個性」があり、そのレベルが組織活動の成果を左右する重要なファクターとなります。

歯科医院も企業もスポーツクラブも、果ては軍隊や国家も規模の大小はあれ人間の集団です。今月は、集団が生み出す個性、即ちその強みや弱みをどのように認識し、いかに上手に活用していくのかについて、経験と学習の中で得た考え方をまとめてみることにしました。前段は太平洋戦争での敗因分析を行なった雑誌記事を元に、国民性という「集団の個性」が戦争遂行の中でどう働いたかという点を、後段はそれを現代社会はどのように反省しどう活かすべきなのかについての考えを、最後は有能なベテランスタッフを解雇するに至った歯科医院の事例を組織行動の中で捉えた一人の院長の考え方を紹介したいと思います。

1　戦史に学ぶ「負けたことの反省」

文藝春秋に載った太平洋戦争の「敗因分析」

文藝春秋の 11 月号に大学教授、作家、軍事評論家といった「戦史」に重点を置いた現代史研究家たち６名による座談会の模様が特集として掲載されています。テーマは「**帝国海軍 vs 米国海軍／日本はなぜアメリカに勝てないのか**」

開戦時には戦備の質量、将兵の練度など多くの点において米海軍を上回り、強かったはずの日本海軍が結果としてどうして負けたのかという点を、様々な角度から明らかにしようと試みたものです。

中堅ビジネスマンからの大きな反響

この手の“現代戦史研究モノ”は最近頓に反響が大きいそうです。同誌では６月号で「昭和の陸軍」、８月号で「昭和の海軍」を特集したのですが、３０代